

地域の皆様に支えられていることに感謝

校長 後藤 修治

両津吉井小学校は、「ふるさと学」をはじめとする教育活動や放課後子ども教室への学習支援、空ビン回収や各種ボランティアへの協力など、多くの地域の皆様に支えられています。そして、学校運営協議会が主体となって募集をした学校支援ボランティアには、約30名の方から登録いただいています。ありがとうございます。学習支援ボランティアの支援分野や内容は以下のとおりです。

支援分野	ボランティア活動の内容
A 安全支援	・登下校の見守り ・校外学習の引率 ・降雪時の通学路除雪 ・災害時の防災パトロール、下校時引率・通学路の草刈り 等
B 学習支援 地域学習	・地域の歴史、自然学習の講師 ・野菜、花壇の花作り指導 ・読み聞かせ ・郷土料理の指導 ・行事（遠足、マラソン大会等）へのサポート 等
C 放課後学習	・放課後子ども教室における学習支援 等
D 環境整備	・校庭、グラウンドの草刈り、除草 ・樹木の剪定 等

昨年度、大雪で子どもたちの通学に支障をきたした際、保護者の方やボランティア登録の有無にかかわらず多くの地域の方々から自主的に除雪をしていただきました。大変助かりました。

また、今年度に入り、放課後子ども教室への学習支援、PTA奉仕作業でのグラウンド除草への参加や読み聞かせの実施など多くの支援をいただいています。

学校の教育活動や環境整備、子どもの安全確保等は学校だけでは難しい面があります。今後もお力添えをいただけますようお願いいたします。

ボランティアは、「できる方が、ご都合のつくときに、できる範囲で」を基本としています。これからでも、ボランティア登録をしていただける方がおられましたら、学校（27-2702 担当は教頭または校長）までご連絡ください。よろしくをお願いいたします。

< 空き家情報を教えてください >

吉井小学校の児童数がこのまま推移しますと、令和9年度には50名を切ってしまう、加茂小学校との統合協議止むなしということになってしまいます。吉井小学校が今後も存続していくためには、何と言っても児童数の増加が必要です。現在、佐渡市には毎年500名前後のIターンやUターンの方が来島しています。その方々の中の子育て世帯が吉井地区に住んでくだされば、吉井小学校の児童数の増加につながります。このような方々に吉井地区に住んでいただくためには、住む場所の確保が必要です。そのため、現在このような方々に住んでいただけるような「空き家情報」を集めています。多少リフォームが必要でも住める空き家があれば是非教えていただきたいと思います。

情報の提供先 (矢田 学校運営協議会会長)

# 令和5年度 第2回学校運営協議会の報告

9月28日(木)開催

※ 学校運営協議会の内容の概略

今回は、授業参観で児童の生の姿を見て意見をいただきたいとのことで、平日の午後に開催された。

## 1 1学期学校評価について

「1学期学校評価資料」をもとに、「ほとんどの評価項目で目標を達成しているが、達成目標の1項目と教育活動の2項目でA評価に至らなかった。」と報告があった。(詳しくは学校だより等で)

立志プロジェクトでは、「自己肯定感が低い児童がいること。」社会力プロジェクトでは、「褒められても喜びを感じない児童がいること。」が課題としてあげられた。委員からは、「子どもが忙しすぎてゆとりがなくなっている。」「やらされている感が強いのではないか。」との意見があった。また、改善策として、「総合学習などは児童の興味を引き出し、楽しんでできる内容にしてはどうか。」「褒める場合には、その場で具体的に褒める。やってもらった人の喜びや感謝を伝えて褒める。」などの提案がなされた。

総合学習については、佐渡の伝統文化を学ぶ意義(ふるさととしての佐渡・地域の良さを知り、ふるさとに誇りと愛着を持つ)が確認された。また、「少人数で目の行き届いた活動」「地域と繋がった活動」ができていて、吉井小学校の良さが活かされているとの意見も出された。

確かな学びに関しては、「根拠をもとに話し合う。」については、時間をかけて丁寧に指導されているとの評価があった。それだけに「定着のための時間の確保も必要で、地域の力を借りることも良いのではないか。」との意見も出された。また、家庭学習の習慣化に向けた取組もしっかりされていてありがたいとの声も出された。

## 2 授業参観の様子について

各委員の感想では、「児童が理由をつけて感想発表ができていて良かった。」「教師と児童の距離感が近く、良い関係が築けている。」「児童の様子から吉井小学校の取組が間違っていないと感じた。」「生き生きと発言する姿に感動した。」などの好意的な意見が数多く出された。

## 3 その他

吉井小学校の存続に向けての取組について提案があった。

児童数の確保のために「不登校特例校」「離島留学」「空き家の活用」などの方法があるが、いろいろな条件から、当面は「空き家の活用」を中心にして取り組むこととなった。(表面に)

また、「学校運営協議会だけの取組でなく、「存続を進める会」(仮称)などを設立し活動を進めていきたい。」との提案も出された。

## 令和5年度 1学期学校関係者評価の結果 (達成目標のみ)

プロジェクト	評価項目	結果	評価
1 立志	・自分の夢・志をもち、それに合っためあてを立て、努力して取り組むことができる児童を85%以上にする。	児童アンケート <b>91.0%</b> (89.1%)	<b>A</b> (A)
2 社会力向上	・自己有用感をもつ児童(人の役に立てることを嬉しいと感じる児童)を自己評価で90%以上にする。	児童アンケート <b>88.8%</b> (93.2%)	<b>B</b> (A)
3 確かな学び ①	・課題解決に向けて根拠をもとにした話し合いができたと思う児童を75%以上にする。	児童アンケート <b>84.4%</b> (82.0%)	<b>A</b> (A)
確かな学び ②	・10分以上×学年の家庭学習を毎日達成できている児童を80%以上にする。	学習カード <b>91.0%</b> (79.0%)	<b>A</b> (B)

※ 結果・評価の数値の上段は令和5年度、(下段)は令和4年度です。